

景況レポート

(4月分・情報連絡員80名)

製造業で業況DI値が後退

【概況(全体)】

4月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査5.0%)、「悪化」が35.0%(同32.5%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較し変化はなかった。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、非製造業で東北・北海道ブロック平均を上回ったものの全国との比較では本県の景況DI値は依然として低い水準での推移となった。

【業界別の状況】

鉄鋼・金属や建設業の一部で好転割合を維持しているものの依然として食料品製造業及び商店街では回復傾向が見られない状況にある。

なお、全体の景況感は、資源価格上昇に伴う原材料価格上昇や運送単価、人件費高騰などの経営コスト上昇圧力が強いなか、一部業種を除いて最終財への価格転嫁が進展しない状況が続いており、中小企業の景況感は総じて悪化している。また、広範な業種において人材確保が困難な状況が続いており、中小企業にとって労働力確保が最重要課題の一つとなっている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-27.5	-15.7	-24.5
製造業	-31.2	-12.4	-22.1
非製造業	-25.0	-18.2	-25.8

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り 10以上 30未満
 雨 10未満
 雷雨 30以下

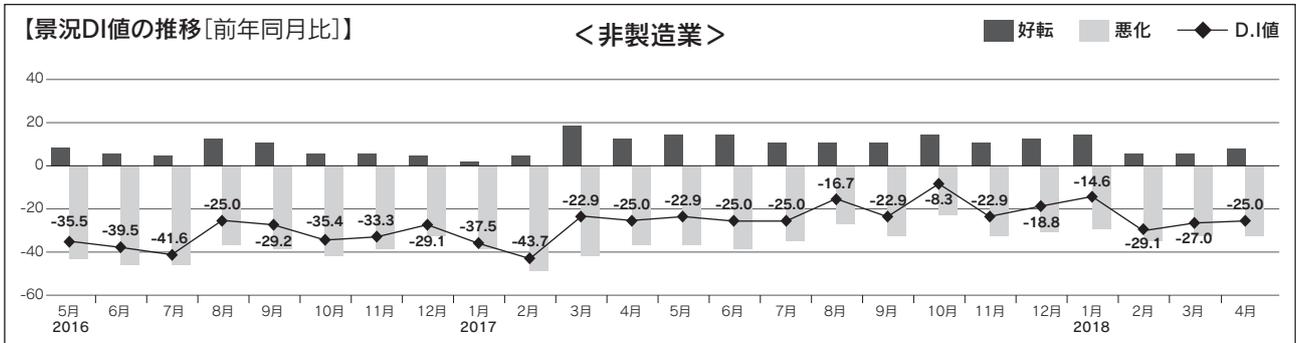
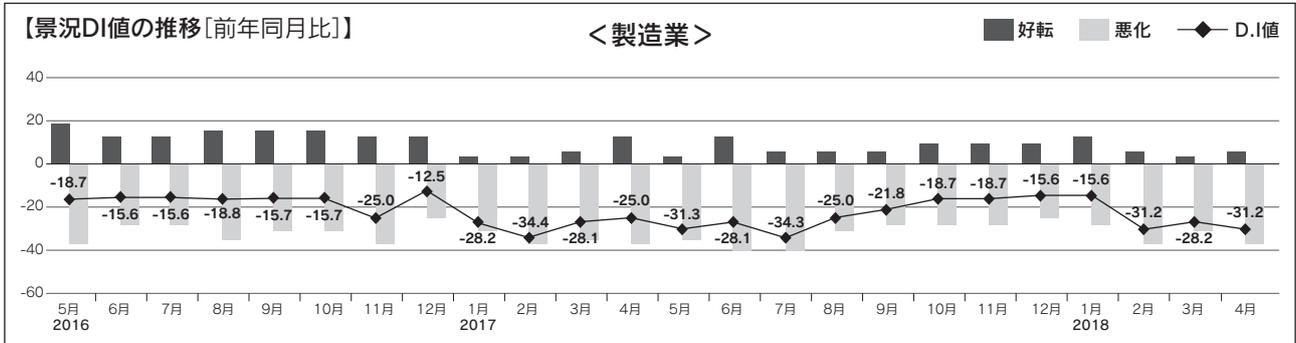
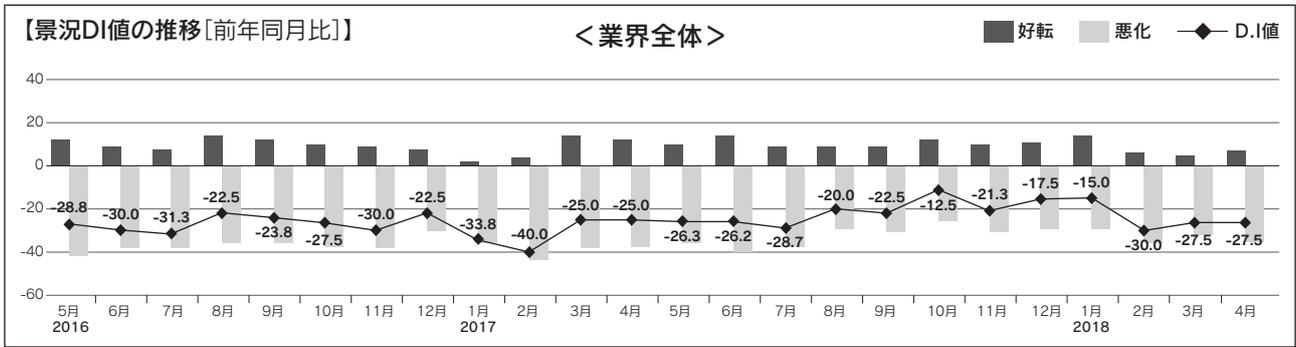
【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	前半気温の高い日が続き、売上が激減した。前年は特殊事情により注文が殺到したこともあり、対前年比では大幅な売上減となった。
食料品 (清酒)	3月の出荷数量は1,678,386ℓで前年同月比89.9%であった。タイプ別では純米酒は前年同月を上回り好調を維持しているが、吟醸酒、本醸造、レギュラー酒については前年同月を下回った。
食料品 (精穀・製粉)	月後半になり受注増加したものの全体では前年同月より減少し、4ヶ月連続で悪化の状況が続いている。
繊維工業 (繊維)	時期的なこともあるが納期の問題で苦戦している。受注数は例年よりやや増加しているが人員不足と社員の高齢化で生産が減少傾向にあり、工賃と人件費の狭間で四苦八苦している。(県南地区) 国内の工場が雇用人員の減少により縮小傾向にあることから生産依頼が幾分増加している。(県南地区)
木材・木製品 (プレカット)	ショートステイ、アパート案件があり、前年並みの1,000坪超の出荷実績であった。
木材・木製品 (外材)	国産針葉樹合板の品薄感はほぼ解除されたものの、今年度の住宅着工件数は昨年を大きく下回らないとの見込みが主流となっており、荷余り感には至っていない。このため、これまで低水準にあった在庫水準の回復を図っている状況である。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	4月の出荷数量は前年を上回ると思われる。前年度、過去最低の出荷数量となったが3月より秋田中央地区、男鹿南秋地区ブロック、風力発電工事等、徐々にではあるが出荷の動きが感じられる。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	中旬までは手持受注を抱えている企業との温度差が顕著に表れている状況にある。見積依頼は多くなっており、今後活発な動きは連休明けになるのではと期待している。
一般機器 (金属加工)	受注面は依然として好調に推移しており設備投資を実施する組合員も見受けられる。受注先の関係から収益面でのバラつきがあり、下請けと孫請けで格差が表れている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	4月に入り鉄価格が4回下落、使用済自動車の入庫が悪く、対前年比20%の減少となっている。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり143円70銭で前月比1円60銭の値上がり、軽油は1ℓあたり123円30銭で前月比1円40銭の値上がり、配達灯油18ℓは1,614円で前月比101円値を上げた。為替レートの円安が原油価格の値上がりの要因である。5月も原油価格の上昇でさらに値上がりするものと思われる。
小売業 (花卉)	切り花の高騰もあり、卸、仲卸、小売とも昨年より少しだけ売上が伸びている。しかし、持ち直しの兆しは未だに見えてこない状況である。
商店街	家電、身の回り品販売は前年同月比を上回っている。食料品、酒類販売については前年並みの売上であった。(秋田市) 売上減少が商品仕入資金減となり、在庫補充の不足が商品構成のバランスを崩し、店舗の魅力減、来店者減そして来街者減と連鎖している状況となっている。(大館市)
サービス業 (旅行)	国内122%、海外90.1%と好調である。ただ、利益率は前年同月比98.9%で年々減少傾向にある。航空券、JR券の手数料率の低下やインターネットへのシフトが主な理由である。
建設業 (管工事)	昨年に比べ一部に新規工事を受注している状況にあり、公共工事の早期発注に期待している。(県北地区)
建設業 (電気工事)	前年と同様の受注量で売上に変動は無かったが、新設住宅工事及び土木工事に伴う臨時電灯工事の受注が増加している。(県南地区)
運輸業 (トラック)	輸送状況は多少増加傾向だったものの前月比、前年同月比ともに売上は増加しているが収益は減少している。また、燃料価格上昇により収益状況は悪化している。5月についても燃料価格が値上がりする予定である。(県南地区)
その他 (砂利)	定期的にダム関連の生コン用骨材の出荷があり例年どおりであった。年度始めのため、本格的な工事は少ない。(県南地区)